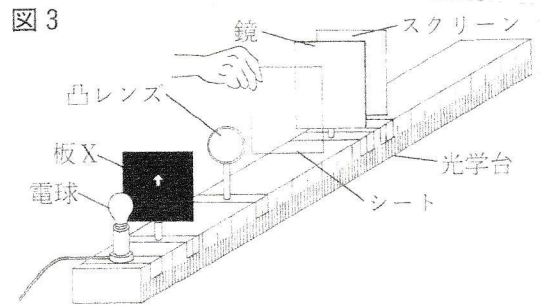
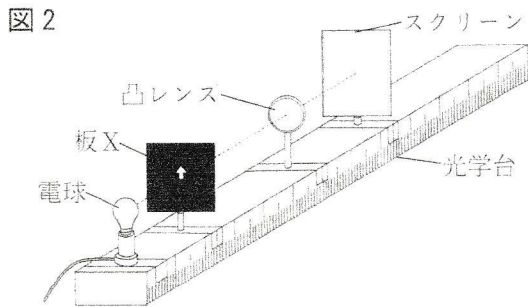


〈実験3〉 実験2と同じ装置を用いて、図3のように、電球と凸レンズを固定し、板Xを凸レンズから22.0 cmの位置に置いた。はっきりした像ができる位置にスクリーンを置いた後、凸レンズから35.0 cm 離して鏡を置いた。次に凸レンズと鏡の間に、光を通す半透明のシートを置き、それを動かしていくと、シート上にはっきりした像ができた。



1. 実験1において、光が集まった点Aを何とよいか、解答欄のことばに合わせて書きなさい。

(凸レンズの 焦点、)

2. 実験2の結果を表にまとめた。

- (1) 実験2において、表のP、Q、R、Sに入る像の向きと長さの組み合わせとして適切なものを、次のア～エから1つ選んで、その符号を書きなさい。

表

板Xと凸レンズの距離(cm)	スクリーンと凸レンズの距離(cm)	板Xの矢印と比べた像の向き	板Xの矢印と比べた像の長さ
36.0	24.3	P	Q
29.0	29.0	上下逆	同じ
22.0	41.0	R	S
14.5	スクリーン上に像はできない		
10.0	スクリーン上に像はできない		

- ア P-上下逆 Q-短い
R-上下逆 S-長い
- イ P-上下逆 Q-長い
R-上下逆 S-短い

- ウ P-同じ Q-短い R-同じ S-長い
- エ P-上下逆 Q-長い R-同じ S-長い

(ア)